

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に係る面談
2. 日時：令和3年6月23日(水) 10時05分～11時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、大辻室長補佐、  
知見主任安全審査官、久川係員、高木技術参与  
  
吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与  
(テレビ会議システムによる出席)  
  
福島第一原子力規制事務所  
田中原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)  
  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクトマネジメント室 担当4名(テレビ会議システムによる出席)  
福島第一原子力発電所 担当7名(テレビ会議システムによる出席)

#### 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業(以下「本作業」という。)に係る検討状況について、資料に基づき以下の説明があった。
  - $\beta$ 線被ばくに関する追加対策について
    - ✓ 本作業を実施するにあたって、HIC上蓋開放後の開口部近傍で高い $\beta$ 線量率が測定されていることから、開口部近傍で作業する必要があるHIC内部構造物の取り外し作業について、モックアップを実施する予定。
  - Sr-90の内部被ばくに関する追加対策について
  - 本作業に係るスケジュールの見直しについて
    - ✓ 本作業については、当初6月下旬からの作業開始を予定していたが、モックアップや追加の安全対策を実施することから、作業開始時期が7月中旬～7月下旬となる予定。
    - ✓ 本作業に係る安全対策等については、取り纏まり次第、本作業の開始前に別途面談にて説明することとしたい。
- 原子力規制庁は、東京電力からの上記説明内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。また、本作業に係る進捗状況については、次回の特定原子力施設監視・評価検討会においても説明することを求めた。
  - Sr-90の内部被ばくに関する追加対策について
    - ✓ 内部被ばくに関する追加対策に係る経緯について、ホールボディーカウンター(WBC)を用いた内部被ばく評価では、本作業において検知すべき高濃度の $\beta$ 核種による被ばくを検知することが難しいこと等、説明を拡充すること。
    - ✓ 本作業における内部被ばく評価に係る対応については、どの作業員を対象として何を実施するのか等、具体的に示すとともに、 $\beta$ 線による内部被ばく評価に係る対応については、現在恒常的に行われていない

ことを鑑みて、改めて対応手順を整理した上で説明すること。

- 過去のHIC上蓋開放作業実績について
  - ✓ 過去の作業実績について、いつ、どのHICを対象として、どのような測定機器を用いたのか等、具体的な説明を拡充すること。
  - ✓ 過去の作業実績からダスト濃度が上昇した事象を抽出するとともに、原因分析した上で本作業におけるダスト対策等へ反映すること。
  - ✓ ダスト発生の要因となるHIC開口部近傍の汚染箇所を特定することができれば、本作業におけるダスト対策等をより効率的に実施できるため、当該箇所を特定する詳細な調査ができないか検討すること。
- 本作業内容について
  - ✓ 本作業においては、HIC内部構造物を取り外す作業が最も作業員被ばく及びダスト発生の可能性が高いと考えられる。そのため、HIC内部構造物を取り外すことなく残スラリーを抜き出すことを検討すること。
  - ✓ HIC内部構造物を取り外さずに残スラリーを抜き出すことが難しい場合、残スラリーは沈殿物で水分保有率が低いと想定され、漏えいのリスクが低いと考えられるため、残スラリーを残した状態で保管を継続することを検討すること。
  - ✓ 本作業における被ばく対策やダスト対策等については、現在審査中の実施計画変更認可申請（多核種除去設備スラリー安定化処理設備の設置）においても、類似の作業が計画されていることから、当該申請案件に知見を反映すること。

## 6. その他

資料：

- HICスラリー移替え作業の状況